

豊岡地区と関地区の祭りを通じた活動

新潟大学教育学部豊岡地域おこし隊(森下ゼミ)
清水 麻衣 佐藤 春菜 桑原 佑衣 中野 紗那

【豊岡地区】 報告者：佐藤春菜、清水麻衣

1.活動概要

- ・3月28日～4月5日 春佐渡

春祭りに向けて太鼓と踊りの練習をしました。吟行会や鼓童の研修所とたたこ館の見学、工作教室など様々な活動を行いました。豊岡の伝統芸能に触れることができ良い経験になりました。

- ・6月5日、6日 みなと公園草刈り

豊岡の方々とみなと公園の草刈りを行いました。

- ・6月19日、20日 地区の寺院の清掃など

寺と境内の掃除や古民家のリフォームのお手伝い、花壇の整備などを行いました。

- ・12月28日、29日 門松づくり (報告会含む)
門松づくりのお手伝いをしました。

竹を切ったり飾り付けをしたり、全員が初めての体験でした。



2.活動を通して

教員にとって大切な要素の一つに配属校の地域との関わりがあります。児童生徒は生活している地域によって今後積んでいくキャリアや目指す方向が異なるため、教員はその地域について知っているか知らないかで大きく適合性が変わってきます。森下ゼミでは「地域おこし」として豊岡の活動に参加していますが、温かく迎えてくださる豊岡の方々との関わりや経験を通して、この地への親しみと皆様への尊敬の念を覚えました。そして、伝統や自然を次世代の子どもに伝承していく必要があると感じました。将来、教員になったら、地域のために活躍できる人材の育成や地域に根ざした教育をしていきたいと思えます。

また、大学生が地域の活動に参加することで、地域の活性化に貢献できると考えます。SNS等を通して情報を発信することで豊岡を知らなかった人に豊岡を知ってもらえ、活性化につながると思います。また、大学生と地域の方々との関わりを通して私たちだけではなく、地域の方々にも活動を通してのメリットがあれば幸いです。

【関地区】報告者：桑原佑衣、中野紗那

1.活動概要

私たちは、10月18日に関地区で開催された「新祭り」と「煮炊き祭り」に参加しました。2つの祭りは、毎年旧暦の9月15日に合わせて行われます。波の花が舞う悪天候の中、太鼓の力強い音が関地区に鳴り響きました。

「新祭り」では、二宮神社で行われた宮出しから参加しました。門付けのために約20軒の家を周る。家から家へ移動する際には太鼓の運搬を手伝いました。各家に着いてからは、地区の皆さんに混ざって私たちも太鼓を打ち、音を繋ぎました。その後、地区の皆さんと一緒にテーブルを囲み、積極的に会話に混ざりながら、煮しめや、お刺身、柿や蜜柑などの御花代をご馳走になりました。

COVID-19が発生する前は、県外からも祭りに訪れてましたが、COVID-19禍の今年は参加者が減ることが見込まれ、祭りが開催できるか否か心配していたと、関地区の方にお聞きしました。祭りの継承に微力ながら貢献できたことを嬉しく思います。

以下は、11月6日の直会の後に、関地区の方からいただいたメッセージです。

昨日はお疲れ様でした。皆さんとお話できてとても楽しかったです。また、息子（未就学児）を気遣ってくれてありがとうございました。大人に混ざるのがこわいと泣いていたのですが、優しいみなさんのおかげで最後はいつもの息子に戻っていたのでとても嬉しかったです。また遊びに来てください。



2.活動で得た学び

関地区の「地域で子どもを育てる環境」に大変魅力を感じています。

大学の講義で、現代の子どもは異なる世代の人と関わる経験が少ないと学びました。その結果社会性を習得できず学級崩壊や不登校に繋がってしまうのが現実です。

しかし、関地区では門付で各ご家庭に伺うたびに「〇〇君、去年より太鼓打てるようになったね」と様々な世代の方声をかけます。子どもたちも「次は□□さんのお家に行くよ」と自ら案内してくれました。地域で子どもたちを大切に育てることが強く感じられる印象的な場面でした。

最後になりましたが、これほど魅力的な関祭りに関わらせていただけましたことを、大変光栄に思います。本当にありがとうございました。